JDR 会報

令和４年（２０２２年）東京都豊島区展特集号

写真と音楽でつなぐ復興支援

池袋・野外劇場は感動の輪

６月３日～５日、東京豊島区池袋駅前の公園広場で開いた復興祈念写真展・コンサート。

全国から集まったJDR会員は、たくさんの家族連れで賑わう会場で豊島区災害復興支援活動実行委員会（会長・高野之夫豊島区長）の皆様とともに被災地支援のこころを繋げました。

晴れ上がった空のもと、東京芸術劇場地下１階アトリエイースト展示室での写真展は、復興庁、東京都など３１の協力団体から出展頂いた貴重な記録５７８枚を掲示し、３日間で約１０００人が観覧されました。

これとともに５日午後、隣接の西口公園グローバルリング野外劇場ステージで開いたコンサートは在日米陸軍軍楽隊、自衛隊第１音楽隊、東京消防庁音楽隊の初の合同演奏となり「花は咲く」など大震災復興を願う清冽な響きに満場の皆様から大きな拍手が。開会式では、高野之夫豊島区長、菅原茂気仙沼市長、カルドン・アズハリFCCJ（日本外国特派員協会）元会長が各開催地の絆を表現するクリスタルリングを次々渡し、連携を確かめ合いました。

【目次】

写真と音楽でつなぐ復興支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

豊島区展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

東日本大震災支援復興写真展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
開会式・・・６
「連携のきずな」クリスタルリングは豊島区から次回開催地気仙沼市へ・・・・・・・・・・・・・・・・７
コンサート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
危機管理展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
来賓メッセージ・復興大臣西銘恒三郎、東京都知事小池百合子、気仙沼市長菅原茂・統合幕僚長山崎幸二、在日米国陸軍司令官ジョエル・B・バゥロウ、日本外国特派員協会元会長カルドン・アズハリ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
積み重ねる準備活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
実行委員会次々と・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
篤志ご協力・岩崎様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６

宮城・気仙沼展第１回実行委員会開く・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７

江津市展、来春に向け、中国地域会員が結束・・・・・・・・・・・・・・・１７

会員交流・研修≪今井美術館で「院展」鑑賞、豊島区展で懇親、広島地区交流≫・・・・・・・・・・１８
通常総会で新役員選出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
第１回、第２回理事会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
【新会員ご紹介】熱い心と気配り、人材集う福間様・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
霊場札所横山ご住職は防災士・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
特許・溶融炉で貢献、古渡様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
世界から集う特派員協会会長、角地（カクチ）様・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
持続成長、数々の社会貢献事業、渡部様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
地域の防災・減災にと谷久県議様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
災害に強い高速道路網をと、由木様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
瀬戸内の島で安心安全な交通機関、中村様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
豊島区展を次につなげる、矢島様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
リサイクル社会へ発明、岡本様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
カヌーづくり教室も、今田様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
学生たちに防災への関心をと、堤様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
写真展創設メンバー、渡辺様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
【リレー随想】第５回　吉原保之会員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
【会員のうごき】転居、会社移転、代表就任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
写真展スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
【お礼】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８

東京都豊島区展全記録

写真展･開会式･コンサート　撮影・中務敦行

【東日本大震災支援復興写真展】

６月３日（金）～５日（日）豊島区西池袋の東京芸術劇場地下１階アトリエイースト展示室で開催しました。

「自衛隊や、消防の皆さんが助けてくれたんだ」・・・子どもたちが熱心に学んでいました。（６月５日）

６月３日。午前９時前にはボランティアの方々が。東京都隊友会、自衛隊家族会に豊島区社会福祉協議会の皆様が集まられ、JDR 会員とともに中務副理事長の手順説明を熱心に聞き入りました。

９時から４０人を超す関係者が掲示作業。予定よりも早く、１１時４５分には５７８枚を貼り終えました。

６月５日、写真展会場前で米陸軍司令官バァウル様、外国特派員協会アズハリ様が会員と和やかに記念撮影。

豊島区長・高野之夫様。

気仙沼市長・菅原茂様。菅原博信理事とともに。

自衛隊第一師団長児玉様、米司令官様、アズハリ様。

バァウル司令官、メアリー夫人、令息揃って観覧。

家族でご覧に。

じっくりと観覧。

黙々と裏方を務める松崎理事、影山ひかり様、岩理事

写真展１０年余。いつもキーマンの中務副理事長

有里理事とボウイスカウトの長女様。防災宣言で出場を前にはげます影山常務理事。後方は小野沢副理事長。

写真を貼り終えて。島根の山本ご夫妻と広島の渡辺様が万事 OK、のＶサイン。
「観覧の皆様をお待ちします」。

【開会式・コンサート・危機管理展】

６月５日（日）区立池袋西口公園グローバルリング野外劇場で開会式と復興祈念コンサート、危機管理展。

８時３０分。会場で朝礼。JDR からは関係者を含め３２人が参加しました。責任者は小野沢副理事長。

JDR テント設営には島根県から山本監事ご夫妻も。

≪開会式≫

区立池袋西口公園野外劇場グローバルリングステージ。

大震災等で亡くなられた方々に全員が黙とう。

会場いっぱいに参加者、観覧の方々は立ち見も。

オープニングは都立千早高校和太鼓部の力強い響き。

安全地帯では幼児たちもお母さんとともに。

主催者の実行委員会高野之夫会長の挨拶。

実行委員会南山幸弘委員長の挨拶。

来賓の在日米陸軍バァウル司令官の挨拶。

来賓の陸上自衛隊第一師団児玉師団長の挨拶。

「連携のきずな」豊島区から気仙沼市へ

JDR は写真展開催４５回目を記念して、今回から開催地を繋ぐ「連携のきずな」リレーをはじめました。バトンとなるのはクリスタルリング（高さ２０㎝、幅７㎝）。金属製のリング２つがクリスタルガラス製の台座のうえにあしらわれ、「☆」星があしらわれています。

第１回は、前回の開催地、日本外国特派員協会～豊島区～気仙沼市の順で手渡しを行いました。野外劇場の開会式のプログラムのなかで受け継がれました。

連携リングは豊島区長から気仙沼市長にしっかりと。

JDR 松崎絵里子理事から FCCJ アズハリ元会長に。

連携プログラムの司会とアシスタントは JDR 東京地区会員がつとめました。リーダーは影山幸一郎常務理事。松崎理事、矢島会員、被災地の小松愛奈様、岸良理事。

菅原市長からのご挨拶。「次は海も山も美しく美味しい料理とおもてなしの気仙沼へ」の呼びかけに大きな拍手がわきました。このあと、被災遺児の小松愛奈さん（宮城県立気仙沼高等学校１年）の凛とした体験発表がありました。

≪コンサート≫

東京消防庁は華麗で力強いフラッグ演技も披露頂きました。

コンサートの入れ替え時に、池袋消防少年団、豊島消防少年団、ボウイスカウト豊島７団、１７団による防災宣言です。

在日米陸軍軍楽隊は隊長のチャプマン上級准尉はじめ３年ぶりの野外演奏にのびのび、溌溂と。日本語で「上を向いて歩こう」の独唱も。

陸上自衛隊第１音楽隊は星野英裕１等陸尉ら 39 名。名高い「歌姫」登場。「花は咲く」はアンコール２回。

≪危機管理展≫

会場をぐるりと囲んで併催の危機管理展を開き、たくさんの人で賑わいました。

東京消防庁の最新鋭 VR 体験車。

気仙沼市の奥には宮城県、豊島法人会のブース。

JDR テントは加盟企業のアルインコ㈱の防災無線、
㈱アース工房のドローン、㈲山本粉炭工業の防災炭製品、
日本環境保全㈱の小型高温溶融炉など特許製品を中心に
社会貢献をアピールできました。

自衛隊東京地方協力本部の自衛官募集。
豊島区実行委員期の神永和昭事務局長が見守り
とはげましの巡回。

気仙沼市から美味しい名物をどっさり、物産販売。

名物の焼牡蠣は池袋初のお目見えでした。ぬいぐるみも登場。

≪来賓メッセージ≫

開催にあたり各界よりメッセージを頂きました。

復興大臣　西銘　恒三郎様

東日本大震災支援復興祈念写真展の開催を祝し、心よりお喜び申し上げます。今後ますますのご発展と健勝をお祈り申し上げます。

東京都知事　小池　百合子様

東日本大震災から１１年が経ちました。改めて、震災で亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りいたします。

私たちは、この悲しい記憶を決して風化させることなく、未来に引き継いでいかなければなりません。災害に強い社会を築き上げていかなければなりません。この間、東京都としても耐震化や不燃化などあらゆる対策を講じてまいりました。そして、先日、これまでの取組の成果や社会環境の変化を踏まえ、新たな被害想定を公表しました。今後、「地域防災計画」を見直すとともに、様々な取組を推進してまいります。災害時には、警察、消防、自衛隊、在日米軍などが、一刻も早く救出活動を開始できることが重要です。緊急輸送道路が閉塞しないよう、沿道に立地する大規模マンション等への補助を拡充し、耐震化をさらに加速します。無電柱化についても、昨年改定した「東京都無電柱化計画」に基づき着実に推進してまいります。

とりわけ、電柱の倒壊が避難経路の遮断などの深刻な事態を招く木密（もくみつ）地域では、私道に係る整備を東京都が全額負担し、早期の実現を図ります。さらに、デジタル技術などの先端技術を活用し、視覚的に災害の実相をシミュレートできるアプリを配布するなど、災害対策をより一層推進します。

世界に伍して成長を続ける都市の力も、いきいきと輝く「人」の力も、安全・安心という基盤の上にこそ発揮されるものであります。都民の命と財産を守るために、東京都は不断に備えを固めます。

昨年、東京２３区内では、東日本大震災以来となる震度５強の地震が発生しました。「備えよ、常に」の精神が大切です。今一度、１１年前の大震災当時を振り返り、私たち一人ひとりが行動していかなければなりません。

この豊島区と特定非営利活動法人全国災害復興活動支援機構が主催する東日本大震災復興写真展をご覧いただき、自らの防災の取組のきっかけにしましょう。また、大震災時のみならず、あらゆる災害において、被災された方々の心に希望の光をもたらし、昼夜を分かたず救援活動に尽力されている陸上自衛隊、在日米陸軍、東京消防庁の演奏を楽しみながら、安全・安心な未来へ向けて歩みを進めましょう。

皆さま、よい休日をおすごしください。

気仙沼市長　菅原　茂様

豊島区東日本大震災支援復興写真展＆コンサートの開催にあたり、豊島区災害復興支援活動実行委員会様並びに特定非営利活動法人全国災害復興支援機構様、関係者の皆様の献身とご尽力に敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げます。

時の流れは早く、東日本大震災の発生から、１１年の月日が過ぎ去りました。

多くの尊い人命が失われ、先人が築いてきたふるさと気仙沼は姿を変え、市民の家家や財産、思い出など、それまでの日常が一瞬で奪われてしまいました。

震災後の復旧復興には、豊島区からも応援職員を派遣いただくなど、これまで数えきれないほど多くのご支援を、全国、全世界の皆様からいただいてきました。改めて衷心より御礼申し上げます。

復旧、復興が進み、それとともに人々の記憶も薄れつつある中、私たちの使命は、震災の記録や経験を後世に伝え、次に世代につなげることであります。自然の猛威は抗うことはできませんが、教訓を糧に被害を最小に抑えることはできると考えております。

この度、開催される震災時の復興支援活動の写真展示やコンサートを通じて、震災の記憶を風化させないことは大変意義のあることであります。大災害の救援・復旧・復興にあたられた自衛隊と米軍の支援による「トモダチ作戦」、東京消防庁はじめ全国の消防、警察などの諸団体、全国からのボランティアの活動、支援など、当時のことが思い起こされ、同時にかけがえのない「縁」をたくさんいただいたと感謝しております。

本市においても、本年９月に豊島区から連携の絆を受け継ぎ、写真展＆祈念コンサートの開催を予定しております。

皆様の目で復興・再生した姿、新たな気仙沼をご覧になっていただき、末永く本市を応援していただければと存じます。

統合幕僚長　陸将　山崎　幸二様

平成２３（2011）年３月１１日に発生した東日本大震災から１１年が経ちます。

未曾有の大震災は東北地方を中心に甚大な被害をもたらし、多くの尊い人命が犠牲となりました。改めて、震災により犠牲となられました方々に謹んで哀悼の意を表します。

当時、震災による未曽有の被害にみまわれた我が国に対し、同盟国たる米国「トモダチ作戦」として前例にないほど多くの人員・艦船・航空機等を投入し、捜索救助、物資輸送、仙台空港の復旧、学校の清掃、気仙沼大島における瓦礫除去作業、さらには日米共同での行方不明者の集中捜索などを行い、その活動は日本人の記憶に深く刻まれました。「トモダチ作戦」は、長年にわたる日米共同訓練などの成果であり、これまで培ってきた日米の絆の強さが証明されたものと言えます。また、作戦を通して得られた教訓は、６０年余の歴史を刻む日米同盟のさらなる深化・発展に確実に生かされています。現在、新型コロナウイルスへの対応のさなかにおいても、様々な取り組みを通じて日米共同対処能力の向上に努めており、日米同盟がもたらす強固な絆は、将来に亘って揺るぎないものとなっています。自衛隊は、厳しい安全保障環境下において、大規模災害を含むあらゆる事態に迅速かつ的確に対応するため、自らの防衛力の主体的・自主的な強化に加え、日米同盟の抑止力・対処力の強化、幅広い分野における協力の強化・拡大に努めていくことをお誓いします。最後に、本写真展を通じて「トモダチ作戦」の活動を多くの方々が目にすることで、今なお困難な状況におられる被災者の方々の心の支えとなるとともに、支援の新たな輪の一助となることを祈念いたします。

在日米陸軍司令官　陸軍少将　ジョエル　B.ヴァウル様

２０１１年3月１１日に発生した東日本大震災から今年で 11 年を迎え、我々は追悼のためにこの場に集っています。

東日本大震災により亡くなられた方々に深く追悼の意を表しますとともに、亡くなられた方々とそのご家族に対しましてお悔やみ申し上げます。震災当時、我々在日米陸軍はトモダチ作戦において刻々と変化する状況に直面するとともに５０年余年に渡り築き上げてきた日米友好の価値を再確認しました。

トモダチ作戦は危険をも顧みず、尊敬、協調の精神を　持ち合いつつ協力して支援にあたった日米両国の強さと信頼を象徴するものとなりました。在日米陸軍には「一団」「ワンチーム」というモットーがありますがその精神に基づいて、今後も日米同盟の更なる強化を実現していくものだと信じております。

Today, we gather to commemorate the 1 1 -year anniversary of the devastating earthquake, tsunami, and subsequent nuclear crisis that struck the Tohoku region on March 11, 2011.

I would like to offer my deepest condolences to those who lost their lives and their families, and extend my heartfelt sympathies to all those who have been affected by the disaster

In spite of the extreme operational temple of Operation TOMODACHI, the United States Army Japan realized the value of　more than 50 years of the bilateral relationship . At the same time, we acknowledged to mandate to continue to nurture this relationship with Japanese as they face to the worst condition

In the spirit of motto, [Ichidan], Japanese for [One Team], I believe that USARJ will display its abilities to simultaneously nurture its relationship with the Japanese counter parts.

公益社団法人日本外国特派員協会元会長　カルドン・アズハリ様

東日本大震災から１１年目を迎え、この場にいることを光栄に存じます。私は、日本外国特派員協会元会長のカルドン・アズハリと申します。特派員協会を代表し、東日本大震災で犠牲になられた方々とそのご遺族の皆様に深い哀悼の意を表します。

この悲惨な災害の時、私たちジャーナリストや記者たちは、現場に足を運び、その状況を報じて参りました。中でも２０１１年3月１１日に起こった甚大な地震と津波による被害から復旧するため、米軍と自衛隊が災害救助のエキスパートを派遣したトモダチ作戦については、主な報道内容の一つでした。

米軍のトモダチ作戦は、自然災害からの救助に欠かせない重要なものだったと証明されました。

東日本の大部分が混乱状態にあった時、米軍が重要な通信資源や物流サービスを提供してくれたおかげで、市民サービスが可能になり、ジャーナリスト達が記事を世界に発信することができました。私は当時、横田基地で、トモダチ作戦がどのように遂行されているかを目のあたりにした記者の一人です。

坂根理事長をはじめとした全国災害復興支援機構が２年間連続してわたしたち外国人特派員協会で開催された写真展は私たちジャーナリストのトモダチ作戦への理解の一助となっただけでなく、日米同盟が現実的にどのように機能しているかを知る機会となりました。そして、この関係が日常のみならず、非常時や自然災害の時には特に欠かせない重要なものであることを示していました。

It is an honor to be here today to commemorate the 11th year of the disaster that hit Tohoku region.

I am Khaldon Azhari, former president of the Foreign Correspondents' Club of Japan. On behalf of my organization, I would like to extend iour deep condolences and sympathy toward the families of the victims.

During that tragic time, we, the journalists and reporters were on the front lines covering the unfolding events and remain involved to this day.

A main cover was on Operation Tomodachi, through which the American military personnel in Japan extended their expertise and strength in assisting Japan to cope with the aftermath of the massive earthquake and tsunami on March 11, 2011.

Operation Tomotchi of the United States Army proved it was of crucial importance in helping with natural disasters.

When much of eastern Japan, was initially, in a state of chaos, the U.S. military provided vital communications, support and logistical services that enabled civilian services to function which also assisted journalists in getting the story out to the world.

I was one of the journalists invited to Yokota air base to see first hand how Operation Tomodachi was conducted there.

At the FCCJ, a photo exhibition, organized by Mr. Sakane and his organization, was very helpful for the journalists to learn about Operation Tomodachi and to see how the alliance between Japan and the united states functions in reality. It showed this relationship is of vital importance at all times, but especially in times of emergency and natural disasters.

【積み重ねる準備活動】

開設記念に地元長崎神社宮司様と新年のお茶席。

１月１５日。豊島区南長崎の JDR 事務所で開設神事。宮司様が安全を祈願。

５月１８日。事務所１階で写真展出展関係者説明会。豊島区や実行委員会事務局、中小機構など参加され、質疑があり、影山常務理事の司会で中務副理事長が掲示方法など説明しました。

【実行委員会次々と】

コロナ感染対応のために実行委員会は開催を巡って議論を重ね、万全の準備体制で開催を決定しました。

１月１２日。豊島区役所で実行委員会。
「コロナ禍で開催可否」を問う声もあり、次回で方針決定の危機。JDR は「最悪、中止でなく延期を」と訴えて各団体からご理解をいただきました。

２月１８日。豊島区法人会会議室で実行委員会。
「コロナ禍で６月３日～５日に延期」と満場一致で決定されました。

５月２３日。豊島区の IKE　BIZ で危機管理展の説明会。小野沢副理事長（写真手前）が諸団体を招集し進行し質疑が活発にありました。

５月３０日。豊島区役所７階会議室で大詰めの実行委員会。高野区長が「必ず成功に導く」と決意を。

【篤志ご協力】

豊島区南長崎の閑静な住宅街の３階建て事務所を JDR の臨時事務所にご提供いただいている岩崎哲也様。６月５日（日）豊島区展開会式に来賓としてお迎えしました

江戸時代、徳川将軍家の要請で旧長崎村を開墾した素封家のご子孫。現在は、東京メトロの駅と直結する地域貢献型ショッピングセンター「サン・テラス」を建設、子育てファミリー向けの食品スーパーや各種専門店、レストラン、教室をテナントに運営されているほか、航空機部品製造等の櫻護謨株式会社を経営されています。

開会式に御参列、アルインコ井上会長と歓談したり、会員を激励頂きました。

気仙沼市展

９月４日、写真展と日米合同コンサート

６月９日午後１時半、宮城県気仙沼市の気仙沼商工会議所会議室で第１回実行委員会が開かれ、コロナ禍で延期した写真展と日米合同の復興祈念コンサートを９月４日、市民会館で開催することを決めました。

会長の菅原茂気仙沼市長、実行委員長の菅原昭彦商工会議所会頭をはじめ、市、市教育委員会、商工会議所、ライオンズクラブ、隊友会などの団体１６人が出席。９月３日の米軍楽隊、自衛隊音楽隊リハーサルを市民公開とすることや、米軍楽隊からの要望により２日には市内の高校での特別演奏会の開催協力をすることなどを決めました。

また、JDR 菅原博信理事の提案で、コンサートのオープンイベントとして今春、本土の中学校と合併、閉校となった大島中学校の卒業生による「大島ソーラン」の上演を企画することも検討することになりました。

江津市展

来年３月５日、写真展・コンサートへ

↑会場予定地の江津市総合市民センター

←広いロビーでは写真展ができます。

JDR は５月１１日、江津市役所で今井久師実行委員長、市総務課などと準備会を開き、写真展を江津市総合市民センターで開催し、併せて在日米陸軍軍楽隊などの復興祈念コンサートを開くことを方向づけました。
その後、日程調整により、来年３月４日（土）、コンサートのリハーサルを各高校吹奏楽部へ公開とし、５日（日）に写真展とコンサート・開会式の併催をすることで計画をまとめることになりました。山陰で米陸軍軍楽隊の演奏は初めてとなります。

会員交流・研修

【今井美術館で院展鑑賞】

中国、四国地区会員は、６月１０日（金）午後、今井産業株式会社・今井久師社長を訪問しました。今井社長は来年３月、江津市で開催する写真展・コンサーとの実行委員長です。

続いて、敷地内で開催中の「院展」を鑑賞。力のこもった現代日本画の美に触れ、今井社長が目ざされる地域貢献の一つである文化事業に感動しました。会員は、今井実行委員長を中心に来年の写真展成功へ、力を合わせることを誓い合いました。（前列左から３人目が今井社長）

【豊島区展で懇親】

６月４日（土）夕、豊島区写真展のために集まった会員は、近くの池袋メトロポリタンホテル２４階ラウンジで交流懇親。

参加者は福岡、広島、島根、大阪、兵庫の８人。会員同士でもコロナ禍で顔合わせの機会がなくはじめて出会う方々もあり、和やかに歓談し５日のコンサート、開会式の晴天、無事と成功を祈りあいました。

【広島地区交流】

広島地区会員は７月１日午後、広島市中区で昼食会をしたあと区内にある経済産業省中国経済産業局を訪ね青木朋人局長（ＪＤＲ会員）に挨拶。来春予定している江津市での写真展の説明など行い、うちとけた雰囲気の中で記念撮影をしました。

←中央が青木局長。スーツの襟にはＪＤＲのバッヂを付けて頂いており、一同嬉しく思いました。

東京電力研修館で原子力事故後の復興を学ぶ

丸紅本社。高原副会長（会員）を訪問

通常総会で写真展など事業決定

【通常総会】

令和４年２月 28 日（月）通常総会を開催しました。コロナ感染防止のため書面、メールでの審査を行い、委任状により、次の議案を審議、承認されました。

第１号議案　令和３年度事業報告、活動計算書承認の件
第２号議案　令和４年度事業計画、活動予算書承認の件
第３号議案　令和４年度入会金及び会費の額決定の件
第４号議案　役員選任の件（理事、監事は 50 音順）

役職	姓名	所在	摘要	役職	姓名	所在	摘要
理事長	坂根直樹	島根県松江市	再	理事	岩　義博	島根県邑智郡	再
副理事長	中務敦行	奈良県大和郡山市	再	理事	岸良圭祐	東京都足立区	再
副理事長	高砂明弘	島根県出雲市	再	理事	甚野貴史	大阪市中央区	再
副理事長	小野沢賢二	長野県佐久郡	再	理事	菅原博信	宮城県気仙沼市	再
副理事長	中屋　茂	愛媛県松山市	再	理事	中井　智	大阪府河内長野市	再
専務理事	山本勝己	岡山県倉敷市	再	理事	橋本秀哲	福岡県北九州市	新
常務理事	徳岡太郎	大阪市中央区	再	理事	古屋裕樹	大阪府茨木市	再
常務理事	影山幸一郎	東京都足立区	再	理事	松崎絵里子	東京都板橋区	再
理事	有里真穂	東京都豊島区	新	監事	山本明男	島根県益田市	再
理事	今井久師	島根県江津市	新				

【第１回理事会】

令和４年２月２１日、以下の議案を書面、メールで審議、承認されました。

第１号議案　令和３年度事業報告、活動計算書承認の件
第２号議案　令和４年度事業計画、活動予算書承認の件
第３号議案　令和４年度入会金及び会費の額決定の件
第４号議案　役員選任の件
第５号議案　通常総会開催の件

【第２回理事会】

令和４年２月２８日、以下の議案を書面、メールで審議、承認されました。

第１号議案　正副理事長、専務理事、常務理事選任の件（上記の表の通りです）

新会員ご紹介

☆福間　孝次様

法人正会員　　１９４０年生

島根県出雲市

福間商事株式会社取締役副会長

紹介者　坂根直樹　森山宗育（２月１５日付）

≪プロフィール≫

福間商事は明治８年（１８７６）創業以来島根県・鳥取県を主な営業エリアとして、サッシ・ガラスを中心とした建築資材を取り扱う卸売施工商社として発展されています。

この間、１９８１年から１９年間、出雲商工会議所会頭をつとめられた先代・秀雄会長は就任するや流通、製造の集散地である市街地が JR、私鉄によって南北に分断され、出雲平野の利点を生かさないまま交通と経済の発展を阻害している状況に強い危機感をもち、鉄道高架による連続立体交差化事業をと強く提唱されました。「この田舎町にできっこない」との声をよそに単身、行政・議会・経済界などを次々と説得し粘り強く運動を続け、至難とされた立体交差化を実現させました。これにより、まちは出雲大社の玄関口として交通至便の地へと生まれ変わり、周辺との合併機運を盛り上げ、現在の人口１８万人都市へと発展しました。

孝次様は兄・利行会長とともに社業を承け、甥の正純社長が継がれてより、たすけあいを重ねさらに新分野へも進展、飛躍させるとともに堅実に展開されています。豪胆なうちにも気配りを込めた優しい人格を慕って集う各界の人材は数多く、地域の信望を受けて高校 PTA 会長をつとめられたとき、周辺で青少年健全育成に妨げとなる施設の建設計画を知るや市民運動で中止・断念に導いた信念、「疾風迅雷」ともいうべき果断な勇気と実行力は、いまも、敬意をもって広く語り継がれ、後輩たちを奮い立たせています。

≪ひとこと≫

災害はとめることは困難だが備えの強化によって被害を押さえることはできるとの志により、粘り強く全国を巡回される皆様の意思と実行力に共感します。わたしも何かお役に立ちたいと考えております。

・・

☆横山　覚尚様

個人正会員　　１９６６年生

香川県小豆郡

宗教法人本覚寺（真言宗）住職

紹介者　岡本経治　中屋　茂（２月２５日付）

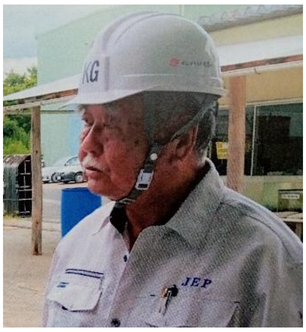
≪プロフィール≫

本覚寺は小豆島霊場８８か所の５３番札所として名高く、多くの巡礼や観光客が集われ、参詣　されています。

伽藍のうちでも観音堂には「一髪観音」が祀られている。１０万人の髪が集められ、中にはインドの故ネール首相の遺髪も所蔵されるといわれています。

また山内にある見事な１３重石塔は広く知られています
横山住職は、札所を守られ、盛り立てるとともに、地域貢献を目ざし、NPO 法人かがわ県防災教育研究会専務理事など社会貢献を重ねておられます。豊島区写真展にあたり、横山住職は揮毫の色紙４０枚を寄託されました。この色紙は JDR が会場で活動募金に協力された篤志の方々にお礼として進呈し、喜んでいただきました。東洋運命易鑑定士、防災士、小型船舶１級資格を保持されています。
≪ひとこと≫
微力ですが、安心安全社会のため、JDR のお力になれればと思います。

・・・



☆古渡　周作様
個人正会員　　１９４２年生
茨城県牛久市
日本環境保全株式会社代表取締役社長
紹介者　岡本経治　中屋　茂（３月９日付）
≪プロフィール≫　　茨城県生まれ。
家業の宮大工職を生かし、古渡建設工業株式会社を設立。その後、業容の拡充、変化とともに社名の変更を行い、平成５年、現在の会社名とされました。
≪ひとこと≫
ある廃棄物処理場で発生した、幼い女児の転落犠牲事故のニュースが私の人生を変えました。私はなにをなすべきか？たまたま、海外視察中に、焼却灰を処理し、無害化したうえで道路工事に再利用している状況を知り、日本のごみ処理のため「溶融炉」の開発に取り組みました。
以来、３年間、多方面の方々から指導を仰ぎ、「溶融炉」を作り出し、稲敷市に設置した研究所に設置。そして、世界で初めてという化石燃料や再製油使用で１４５０～１８００度Ｃを保てる水と油の混合燃焼バーナー（エマルジョン燃焼）の発明となりました。化石燃料及び再生油を使用して溶融している機械はまだ少ないのが現状です。
今後は、高度な技術と経験を駆使して、国内はもちろん海外の環境保全の設計から施工までサポートし、地球環境保全貢献企業として努力してまいります。ＪＤＲの皆様と防災貢献事業をともにするなかで、新たな仲間とともに自分の経験が生かせるよう努めたいと存じます。

・・・

↑丸の内スクエアのビル５～６階に FCCJ。

↑館内のカフェレストランで会員と談笑するカクチ会長（中央）

☆角地（カクチ）　スベンドリニ（Suvendrini Kakuchi）様
個人賛助会員　１９５３年生　　東京都目黒区
英国ユニバーサルワールドニュース社東京特派員

公益社団法人日本外国特派員協会会長（The Foreign　 Correspondents’ Club of Japan　President Board of Directors）
紹介者　坂根直樹　徳岡太郎　小野沢賢二（３月２３日付）
≪プロフィール≫
スリランカ生まれ。弁護士として尊敬されてきた父君の影響で、「正しく生きて社会のために」を志してコロンボ大学卒業後、上智大及びハーバード大学院に留学。共同通信社等を経て、現在に。在日２７年。アジアの津波等大災害のボランティアの調査、研究を行い著書「あなたにもできる災害ボランティア・・・津波被害の現場から」（岩波ジュニア新書）を発刊。津波で被災したスリランカやタイでの実例を紹介しながら、特別な技能がなくても、大きな組織に属さなくてもできるボランティア活動を紹介。そのほか「私、日本に住んでいます」（岩波ジュニア新書）も著述。日本外国特派員協会（ＦCCJ）会長は２度目。
≪ひとこと≫
仲間入りして嬉しく思います。JDR のみなさん、力を合わせ被災地で国際ジャーナリストたちによる防災セミナーを開きませんか。
・・・

↑全山陰学童野球大会や神話の出雲路をかける「くにびきマラソン」を支援されています。

☆渡部　俊明様
個人正会員　　１９４８年生　　 島根県出雲市
山陰パナソニック株式会社代表取締役会長
紹介者　坂根直樹　福間孝次（４月１日付）
≪プロフィール≫
島根県生まれ。大学卒業後松下電器（現、パナソニック）勤務を経て、山陰ナショナル製品販売（現・山陰パナソニック）株式会社へ入社。
平成元年（１９８９年）、４１歳で代表取締役社長に就任、平成１９年（２００７年）より現職。
同社は、神話のふるさと島根を象徴する出雲大社（いずもおおやしろ）のある出雲市に昭和３３年（１９５８年）創業以来、パナソニックグループの商品を中心にした総合販売会社として家電・住設建材・電設資材・システムソリューション・カーエレクトロニクス・施工・修理・保守・ドコモショップ運営など幅広い事業領域のもと島根県、鳥取県に営業拠点を構え、地域社会の発展に向けた「お役立ち」を通じて、なくてはならない存在を目ざし、事業を推進されています。
渡部様は幼い頃、父君の先代社長が経営される同社をたびたび出張訪問した松下電器創業者の松下幸之助氏から「しっかり頑張ってや」といつも笑顔で頭を撫でられ励まされた思い出を大切に、社業の発展に邁進されてきました。就任以来黒字無借入のモデル経営を構築するとともに全社あげ「スポーツを通じて地域社会へ健康・次世代健全育成」を掲げ、多くの貢献事業に取り組まれ、好感度の高い企業のすぐれた指導者として経済界や教育界で学びの対象とされています。

≪ひとこと≫
全国で大規模な災害が頻発しており、地域の安心、安全への危機感は、高まっていると思います。そのような中、坂根理事長から教訓や記憶を後世に継承するという思いと活動を伺い、少しでも個人でお役に立てればと思いました。

・・・

☆谷久　浩一様
個人正会員　　１９６８年生
香川県小豆郡　　　　　香川県議会議員
紹介者　岡本経治　中屋　茂（４月１日付）
≪プロフィール≫
香川県土庄町議を経て、社団法人小豆島青年会議所理事長、社団法人日本青年会議所香川ブロック協議会会長を歴任。香川県議会議員４期目で文教厚生委員会に所属されています。
全国で一番面積の小さい県だからこそできるオリジナルな施策を掲げ、高潮など災害に強い県土づくりを進めてこられました。安心して暮らせるふるさとの実現を目指したいと活動されています。
趣味はサッカー、フットサル、スポーツ観戦。座右の銘は「常念実現」「素心探考」。
≪ひとこと≫
活動で得られた経験や知識を、地域の防災減災活動につなげてまいります。よろしくお願い申し上げます。

・・

東京湾を横断する便利で優美なアクアラインも建設、管理、運営をされています。（写真は東日本高速道路株式会社提供）

☆由木　文彦様
個人賛助会員　１９６０年生　　東京都豊島区
東日本高速道路株式会社代表取締役社長
紹介者　高原一郎　坂根直樹（４月１日付）
≪プロフィール≫
島根県出身
昭和５８年３月　　東京大学法学部卒業後建設省入省。
平成６年４月　　　福島県企画調整部調整課　課長（出向）
平成１８年１０月　国土交通省都市・地域整備局都市計画課　課長
平成２１年４月　　京都市副市長
平成２４年９月　　内閣官房　審議官（内閣総務官室）
平成２７年７月　　国土交通省住宅局長
平成２９年７月　　国土交通省総合政策局長

平成３０年７月　　国土交通審議官
令和２年７月　　　復興庁事務次官
令和３年１０月　　三井住友海上火災保険株式会社　顧問
令和４年３月　　　東日本高速道路株式会社　顧問
令和４年６月　　　東日本高速道路株式会社代表取締役社長
同社の高速道路網は、首都圏から北海道まで延長 4000 キロ。東日本大震災による被災後、全グループで迅速な復旧に全力を挙げ、くらしと経済、いのちの安心の確保につとめられました。いまも、常に安全管理、保全、補強が行われています。
≪ひとこと≫
今まで３８年余り国土交通省で培った経験を活かし、災害に強い道路づくりや関係機関と連携した訓練等を通じて災害への備えを行うとともに、次世代にもしっかり継承してまいります。
・・

☆中村　彰紀様
個人正会員　　１９８０年生
香川県小豆郡
小豆島交通株式会社代表取締役社長
紹介者　岡本経治　中屋　茂（４月４日付）
≪プロフィール≫
平成２３年８月～　　小豆島交通株式会社取締役企画部長

↑島内を繋ぐ唯一の交通機関として町民、観光客に頼りにされています

２６年１１月～　　同社代表取締役
２７年６月～　　香川県タクシー組合理事
２９年６月～　　小豆島観光戦略会議副本部長兼任
≪ひとこと≫
防災についてはまだまだ精進の身ですが、何卒よろしくお願い致します。
・・・

☆矢島　大介様
法人正会員　　１９６７年生　　東京都足立区
有限会社ヤジマ代表取締役
紹介者　影山幸一郎　岸良圭祐（５月２日付）
≪プロフィール≫
１９８９年３月　有限会社矢島薬局　入社
１９９５年４月　有限会社矢島薬局　取締役就任
１９９６年２月　有限会社ヤジマ　社名変更
２００７年４月　有限会社ヤジマ　代表取締役就任
公益社団法人東京青年会議所　２００７年卒業
東京商工会議所足立支部商業分科会所属
公益社団法人足立法人会公益事業委員会所属
≪ひとこと≫

１８９７年に初代が薬局を創業し、２００７年に４代目として代表取締役に就任し、現在は処方箋調剤薬局の経営をしております。東京青年会議所で知り合った影山君の紹介で、全国災害復興活動支援機構のお話を聞き、共感し、微力ではございますが自分でも何か出来ればと思い入会させていただきました。

未熟者でございます。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

・・

☆岡本　良一様

法人正会員　　１９５３年生　　広島県福山市

永和国土環境株式会社代表取締役

紹介者　佐藤一徳　坂根直樹（５月９日付）

≪プロフィール≫

1996 年から環境事業に取り組みはじめ『アクアメイク』と名付けた排水再利用装置を開発。この装置には、広島の特産品であるカキの殻が用いられており、人の排泄物からきれいな水を生み出す事ができます。会社創設以来「自然のサイクルを生かし、限りある資源を大切にした人にやさしく地球にやさしい環境浄化」を目指し、全国で水源の乏しい道の駅、離島や山間地で導入されています。

≪ひとこと≫

災害時にはトイレ問題が深刻な状況となります。自立型・可搬式のアクアメイクを設置することによりライフラインが途絶えた場合でも地域から集まる、市民・町民へ安全で快適な水洗トイレを提供し皆が不安無くトイレの使用が可能となります。弊社の活動で一人でも多く安心なトイレを利用して頂ければ幸いです。宜しくお願い致します。

・・

↑工房でゆったり制作のひととき。至福の時間

☆今田　忠則様

個人正会員　　１９５２年生

広島市佐伯区

TAD 代表・１級建築士

紹介者　山本明男　今井久師（６月１７日付）

≪プロフィール≫

福岡県生まれ。広島大学工学部卒業後、鹿島建設に入社。建設現場の近代化につとめ、海外勤務で３年間、米国サクラメント及びシアトルで建設工事事務所長を務めるなど活躍されました。

この間、趣味で自宅に木工製品工房をつくり、ボランティアでカヌー、ネームプレート、食器、作業テーブルまで制作指導され、頼み込まれるとなんでも研究して作りあげるのを楽しみにされています。

≪ひとこと≫

いま、書でデザインされた和紙行灯、照明内蔵額縁の作成を依頼されて取り掛かっています。

ほかに、仲間との自宅バーベキュー及びキャンプ飯などの男料理や焼きもの（器）づくりも興味をもって作っています。このところ車中泊キャンプにはまっています。車での災害避難に対応できるようミニバンを自力で改造しました。

・・

☆堤　一直様

活動会員　　　１９８０年生　　　東京都練馬区

紹介者　門司浩一　中屋　茂（６月２０日付）

≪プロフィール≫
東京都出身。早稲田大学大学院アジア・太平洋研究科博士課程修了。博士（学術）。
研究分野は国際関係論。山梨県立大学非常勤講師等として研究・教育に携わる。

一般財団法人アジア・ユーラシア総合研究所客員研究員。韓国・慶熈大学附設日本学研究所首席研究員
≪ひとこと≫
２０１１、この４桁の数字を目にすると、私にはあの尋常でない揺れと、テレビで見た住宅街を飲み込む津波の映像が思い起こされます。
あれから、もう１０年以上経ったのかと思い写真展を訪れましたが、そこで見た「瓦礫の中に置かれている人々の姿」は忘れられないものとなりました。写真の背景に映っているものが瓦礫ではなく、整然とした街並みや、美しい大自然であったならばどれほど良かったかと、ふと、そんな思いがこみ上げました。ですが、目に見えない大きな力の中で生きることを感傷を交えず、受け容れることが人の定めなのかもしれません。
そのような、「突然の喪失に遭いながらも、その後の日々を歩む人々」、そして「その傍らで手を差し伸べる人々」。これら貴い姿が、写真を通じて末永く残り、観る人の心に刻まれることを祈ります。

・・

↑広島カープ優勝で賑わう本通商店街。盛り上げ役は渡辺様。

☆渡辺　敏明様
個人正会員　　　　１９４６年生　　　　広島市西区
中小企業診断士事務所代表。前広島本通商店街振興組合理事・事務局長
紹介者　坂根直樹　　加藤義明　（７月１日付）
≪プロフィール≫
広島県庁産業振興部門で指導にあたられた後、請われて広島本通商店街振興組合理事事務局長としてまちづくりに献身されました。この間、２０１１年、災害復興支援活動写真展活動の創設に参画され、商店街事務所の会議室を準備会に提供されるなどご尽力頂き、全国巡廻の道筋をつけて頂きました。６月の豊島区での事業には上京され、ご協力いただきました。趣味で古典芸能の長唄三味線をたしなまれます。
≪ひとこと≫
命懸け（いのちがけ）！？
私が３０余年勤務した地方公務員はさながら平均台上の体操のようで、上司の声より住民の声より、マニュアル通りにすれば身分は保証された。
定年近くになり、流通関係に転職した。それを契機に考えを変えた。「人との出会いに進んで努める。誘われたらイエスと言おうと」と。暮らしていく中で、突然の天災や人災に見舞われる。人は皆、家族、友人知人、地域社会、国家などいろいろな枠組みの中で、支えられ、守られている。
ところで、わたしがこれまで関わった仕事は、果たして「命がけ」のものだったのか、自衛官、警察官、消防職員等々、限られた公務員は自らの生命を賭して仕事にあたっている。彼等の災害復興活動にひたむきに取

り組む様子を多くの人に関心を持ってもらい、感謝の気持ちを共有したい。そのために一市民として身近なところから関わっていきたい。この団体がそんな思いを叶えてくれる「無償の働き」の機会と信じる。

まだ、体力には自信がある。世間並みに年金もいただいており経済的な不安はマズないのだから。

リレー随想〔第5回〕

吉原保之会員

「市民とあゆむ大阪大学」・・・好評のブログより寄稿

5月25日大阪倶楽部で、大阪大学総長・西尾章治郎氏の講演**「市民と共に歩む大阪大学」**が始まった。以下の7項目を約1時間、熱く語られた。

1 「大阪は宗教都市である」

五木寛之著「日本のこころ」より、「大阪は宗教都市である」と。日本人のこころ・身分を隔てない。それが「信仰によって結ばれた運命共同体の町」。巨大な「地内町」、人々は「御同朋」などに表れている。

蓮如聖人の教え「商売に一生懸命励みなさい。そして、儲かったらその利益を世のため人のために還元すればよいのです。」

2 「市民の熱き想いで学術を育んできた都市・大阪」

懐徳堂が「都市の民衆のための学問所として」「書生の交わりは、貴賤貧富を論ぜず、同輩となすべき事」

3 「市民の力によって創設された大学」

「大阪で国際人を育てる学校を」大阪外国語学校設立（1922年、大正11年）「民間の財源が原動力になった」

国からの資金が、少なくなりつつある。(北極の白熊が、温暖化で氷が溶けだすように・・・)

4 「産学連携から産学共創へ」

大学の研究力を基盤とした産学連携による社会変革。日本発明協会から3年連続で受賞。本学の「共創」、組織間連携（文部科学大臣賞受賞)。

5「感染症対策プロジェクト」

本学の感染症研究の歴史。日本財団、大阪大学感染症対策プロジェクト。新設の感染症研究棟を当学のランドマーク

6 「“いのち”が輝く社会の実現」

2025年に向けた具体的な取り組み。海外大学とのアライアンス化。ＳＤＧｓ関する学生動画コンテスト（万博まで継続）

7 「社会貢献から社会創造へ」

当学が目指している大学像、経営改革構想、大学債の発行、「中之島アゴラ」構想。

多くの画像を駆使され、丁寧に話されたので、少しむつかしい話になるのかなとの思いも吹き飛んだ。

大阪育ちの私には、ある程度の知識はあったが、このように理路整然と、具体例を出された講演は、大変勉強になった。

今回の第18代・西尾章治郎総長の講演前日に、15代・宮原秀夫総長に講演を聴きに行くことを伝えると、宮原氏が京大の助手の時に、学生の西尾氏が研究室に入られ、大変まじめな方である・・・とのことであった。「世間は狭い。悪いことはできないな。」と宮原氏と笑いあった。

宮原氏は、私と高校の同窓で、総長就任時から有志で、毎月、中之島の大阪大学研修センターで会食した頃が懐かしい。又、息子も、阪大医学部を卒業し、大学院時の海外短期留学、院在籍中に京大院（1年位京都で下宿生活）での研究。その時の研究論文が評価されたと聞いている。最終的に、4年間の院生活を終える際に、

たまたま阪大総長が宮原氏であったので、宮原総長のサインの認証状？（院卒業証書？）をいただいたようである。

又、当時の阪大監事・二瓶文博さんも高校の同窓・・・。今回もご縁のある話題を掲載することができた。

【会員のうごき】

☆６月１日。坂根直樹会員　　新住所に移転。
〒659-0091　兵庫県芦屋市東山町９番１７号　℡：0797-61-6646　FAX:0797-52-2437
☆６月２８日。由木文彦会員　東日本高速道路株式会社代表取締役社長に就任。
〒100-8979　東京都千代田区霞が関 3-3-2、新霞が関ビルディング（総合受付 14 階）
☆７月１日。影山幸一郎会員　株式会社影山工務店新社屋に移転。
〒123-0854　東京都足立区本木東町４－１
☆７月１日。　太田雄彦会員　経済産業省関東経済産業局長に就任
〒330-9715　埼玉県さいたま市中央区新都心１番地１、さいたま新都心合同庁舎１号館

【写真展スケジュール】

年	月	日	ところ	内容
4	9	3（土）	宮城県気仙沼市・気仙沼市民会館	１２時より東日本大震災支援復興写真展掲示
		4（日）		９時～１７時。写真展開場 １３時～１６時。東日本大震災支援復興写真展・開会式・復興祈念日米合同コンサート（大震災のとき、支援にあたられた自衛隊、米軍隊員が再訪、演奏されます）
5	3	4（土）	島根県江津市・市民総合センター	写真展掲示 米陸軍軍楽隊コンサート公開リハーサル
		5（日）		東日本大震災支援復興写真展・開会式・日米合同コンサート（山陰で初の合同演奏です）

【注】日程等は変更することがあります。

【お礼】

６月３日～５日東京都豊島区池袋、東京芸術劇場及び池袋西口公園グローバルリング野外劇場で豊島区災害復興支援活動実行委員会様とともに開きました復興祈念写真展＆コンサートは多数のご来場のうちに無事終了いたしました。ご共催いただいた豊島区はじめ諸団体様のご後援、ご協賛に心から御礼申し上げます。

今回、初めて企画しました開催地連携の絆クリスタルリングは次の開催地、宮城県気仙沼市へと引き継がれましたことをご報告致します。

《発行》
令和４（２０２２）年７月２５日
特定非営利活動法人全国災害復興活動支援機構
事務局：〒551-0001　大阪市大正区三軒家西１丁目１６番１６号
℡：06-6585-7815　URL：www.npo-jdr.org
《編集》
文：坂根直樹、写真・監修：中務敦行、校正：中屋　茂、岩　義博、堤　一直